令和8年度岩倉南小

学校運営協議会ニュース　NO. 3

「子どもの未来と成長を支えるために」

令和８年１０月５日
岩倉南小学校学校運営協議会理事会
会　長　　二股　　茂
京都市立岩倉南小学校
校　長　　谷村　茂生

９月１６日（水）に第３回学校運営協議会を開催しました。今回は、学校評価アンケートの結果や日頃の子どもたちの様子をもとに、学校・家庭・地域がどのように連携しながら子どもたちの成長を支えていくかについて意見交流を行いました。

高学年のリーダーシップに成長を実感





協議会では、まず高学年児童の成長について話題になりました。

児童館では、困っている低学年の子どもに高学年が自然に声をかけたり、遊び方や過ごし方を教えたりする姿が日常的に見られるそうです。低学年の子どもたちも、職員だけでなく５・６年生に気軽に相談する様子があり、高学年への信頼が感じられます。

また、学校で実施した「たてわり夏祭り」でも、５・６年生が下級生をまとめたり、自ら役割を見つけて活動したりする姿が見られました。

委員からは、「これまで６年生に注目しがちだったが、５年生も立派にリーダーシップを発揮している」「学校で培われた力が地域でも生かされている」といった意見が出されました。

学校でのたてわり活動や異学年交流が、思いやりや責任感、主体性の育成につながっていることを改めて感じる機会となりました。

「学び」と「将来」をどうつなげるか

学校評価アンケートでは、「学習したことが将来、社会に出たときに役立つと思うか」という質問への回答について、委員から、「学力は高いが、この項目の結果がやや低いことが印象に残った」という声が上がりました。

その背景については様々な意見が交わされました。

今の子どもたちは、インターネットやSNSを通して多くの情報に触れています。また、AIの普及や社会の急速な変化によって、将来の仕事や社会のあり方も大きく変わろうとしています。

委員からは、「将来の社会が見通しにくい時代だからこそ、子どもたちも将来について現実的に考えているのではないか」「以前よりも多くの情報に触れることができるため、子どもたちなりに様々なことを考えているのかもしれない」といった意見が出されました。

一方で、毎年、子どもたちが図画工作科の時間に制作する『未来の私』の作品からは、将来への夢や希望、自分らしい生き方への憧れが数多く見られます。

協議会では、学習内容そのものだけでなく、「学ぶことを通して身に付けた力が将来につながる」という実感を育んでいくことの大切さについて共有されました。

これからの社会で求められる力とは



社会の変化についても意見交流が行われました。

近年は AI の活用が急速に進み、知りたいことをすぐに調べることができる時代になっています。そうした中で、単に知識を覚えるだけでなく、



・自分で考える力
・自分で問いを立てる力
・自分から行動する力
・他者と協力して課題を解決する力

がますます重要になるという意見が出されました。

岩倉南小学校では、子どもたちが主体的に考え、仲間と協働しながら学ぶ活動を大切にしています。委員からは、「子どもたちは、自分で考えたり発見したりすることの大切さを感じながら成長しているのではないか」という声もありました。

また、学校評価アンケートや学習状況調査などのデータ活用についても話題となりました。数値は子どもたちの様子を知るための大切な手がかりですが、それだけでなく日々の子どもたちの姿や成長の過程を丁寧に見取ることが大切であることも確認されました。

子どもたちを支える家庭・地域の力

協議の中では、家庭や地域とのつながりについても話題となりました。

保護者が子どもとの時間を大切にしている姿や、家庭での会話の大切さについて意見が交わされました。また、学校だけでなく地域活動や PTA 活動などを通して、子ども同士がつながり、新たな出会いや交流が広がることへの期待も共有されました。

さらに、SNS やスマートフォンとの関わり方についても話題となり、子どもたちが健やかに成長していくために、家庭・地域・学校が連携して見守っていくことの大切さを改めて確認しました。

学校運営協議会より

今回の協議会では、子どもたちの主体的な姿や高学年のリーダーシップ、そして家庭や地域とのつながりの大切さについて多くの意見が交わされました。

委員の皆様からは、「子どもたちの成長を様々な場面で感じる」「学校の教育活動が充実している」「地域全体で子どもたちを支えていきたい」「子どもたちが学びを発信できる場を大切にしたい」といった前向きな声が寄せられました。

学校運営協議会では、これからも学校・家庭・地域が力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支える学校づくりを進めてまいります。

知・徳・体のアンケート結果と自己評価の詳細については、「学校評価特集号」もご参照ください。